

大学における観光学部開設の提言 (2003年7月24日)

社団法人 関西経済連合会
文化・観光委員会

観光産業は新規経済波及効果と雇用創出効果が高く、長期にわたって成長が見込まれる等、将来性は大きく、わが国の経済の主幹産業のひとつとして期待でき、その担い手である人材の育成は重要な課題である。

観光産業に従事する人材には、ホスピタリティ・マインドに加え、広範な専門知識が求められる。急拡大する市場ニーズに応えるため、観光学の拠点の設置による、必要な質と量の人材の育成が不可欠である。現在、関西の大学に観光学部は1つしかなく、今後予想される人材需要の増大を考えれば、関西における観光学部開設は喫緊の課題である。

また、将来観光産業へ従事することによりわが国への観光誘致にも資する外国人留学生のため、産官学が一体となって、観光産業への外国人留学生の参画支援のための様々な工夫が必要である。

以上のような観点から、関西経済連合会文化・観光委員会は、次のように要望する。

記

1. 観光資源の多い関西の大学が、広く観光学部を設置すること。
2. その手続きが速やかに実施されるよう、国及び地方公共団体が積極的な支援を行うこと。
3. わが国で観光学を学ぶ外国人留学生のため、観光学部を設置する大学が、カリキュラムの充実や奨学金・学位認定制度等の整備、観光関連企業でのインターンシップの導入等を検討すること。